穴アーカイブ：an-archive
記録を残すという営みを、記録が残らないこと、すなわち、記録の不在（穴）から捉え直す反（an）アーカイブ的アーカイブの試み。昭和30～50年代にかけて市販された8ミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、くらしに光をあてる。2015年から始動。

世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

かぶうずら、やまいもうなぎ

アカカブの会の記録2021 no.4〈コロナ禍・特別篇〉

せたがやアカカブの会：The setagaya akakav circle
穴アーカイブにおいてデジタル化した映像を、じっくり観ながら語り合う小さな集いの場。ほぼ隔月で開催。開催予定、上映内容は、生活工房HPまたはくお問い合わせ>からご確認下さい。一見さん大歓迎。本誌くかぶうずら、やまいもうなぎ>は、当会の断片的・公式活動記録。

参加者の記憶を媒介とした対面での「言葉の交流」を目的とする、せたがやアカカブの会。このたびのコロナ禍の状況を受けて、会員の皆さまが各自のお住まいから非対面的に参加できる《ハガキ方式》での遠隔実施を試験的にはじめました。
今回、各自の環境でご覧いただいた映像は『誠5歳9ヶ月、由美3歳11ヶ月』（no.60、昭和42年6月撮影）でした。さて、どのような声が集まってきたのでしょうか。じっくりお楽しみください。

キャプチャー画像：
誠5歳9ヶ月、由美3歳11ヶ月｜昭和45年1月｜自宅（用賀）、砧公園
4分32秒｜カラー
提供者の子ども2人が通う幼稚園の運動会での撮影
3歳だった娘の身体は、他の子よりも大きかった。幼稚園の運動会なのに、たくさんの子どもがいる場面は変わって、自宅を掃除する娘と妻。平日に休みを取るのは難しくなかったと提供者は言っていました。

穴アーカイブ:an-archive
せたがやアカカブの会vol.28〈ハガキ方式〉
開催方法：アカカブの会々員に郵送した返信用ハガキに回答・返送してもらいました
募集期間：2021年11月8日-12月7日
回答数：11名　※2021年11月8日-12月7日に生活工房で集めたハガキも記載しています

かぶうずら、やまいもうなぎ　アカカブの会の記録2021 no.4〈コロナ禍・特別篇〉
発行日：2022年1月6日

お問い合わせ：生活工房　03-5432-1543　info@setagaya-ldc.net
編集：せたがやアカカブの会世話人（松本篤、八木寛之、成田海波、ブルサコワありな）
主催・発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004　東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
http://www.setagaya-ldc.net/
企画制作：remo［NPO法人記録と表現とメディアのための組織］
後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

本誌の無断転写、複製、転載を禁じます。

あ）13才、埼玉県にいた。

い）運動会。赤、緑、青の帽子が鳥帽子のような形に見えます。3才児は少しジ機嫌ななめのよう。5才児はさすがにちゃんと整列し、まじめに競技しているように見えます。足下はズックのようですが、自分の時は地下足袋でイヤでした。

う）横浜市在住　64才

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

(あ) 3歳、映像の下の子と同学年の男子でした。

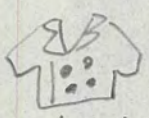
(い) 当時の世田谷の風景、砧公園、日常生活
すべて懐しい。当時だいたいの男子はギズボン。
晴れの日にはタイツを履かされて、あれがトイレで困った。
あと、砧公園から見えるゴミ焼却所の煙突は
赤白模様でしたね

(う) 世田谷区　砧

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

あ）7才　神奈川、湘南　鵠沼

い）当時はみじかいワンピースにカーディガン、タイツで、映像をなつかしく観ました。
男の子はつりズボンでした。コートは前に4つボタンがついたもの  が主流でハイカラでした。祖母や祖父のいる家庭が多く、皆でサザエさんをみていました。とてもいい時代だったと思います

う）58才　世田谷区上野毛

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

(あ) まだ生まれてません。

(い) 子供達の帽子の型が、今にはないデザインで
逆に新鮮でオシャレだと思った。セーターは手作り？
いつの時代も、子供達の元気いっぱいの笑顔は
見ていてこちら側が元気をもらうとつくづく感じた。
（モップでのおそうじが、とても楽しそうでほほえましい）
最後の方に映る男性（お父さん）がとてもさわやか
でカッコイイです。

(う) 37才　世田谷区在住

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

(あ) まだ生まれていません。

(い) 当時の砧公園から見える高くて細い建物
（伝わるかな…）は今の水色ではなく、赤と白
だったのですね。

(う) 24才　世田谷区在住

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

あ）生まれる5年前

い）自分の運動会。保育園はお寺で、お茶とか
のみたいな。運動会で粉の中の飴玉（アメ）を探すのが
楽しかったような。今思うとアブない。あと、パン食い
競走も好きでした。

う）40才、世田谷区

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

(あ) 当時11才　世田谷区

(い) 何とも説明しがたい、当時の生活感が懐しいです。
板張りの外廊下、ハブのあるデコボコの道、男の子の服装…
・今から思うと豊かではなく、合理的でもなかったけれども
当時は、そんな事を感じることのない、子どもの幸せ時間でした。
・私も、横浜の氷川丸に連れていってもらい、夏休みの宿題に
氷川丸の絵を提出したことを思い出しました。
・遊びに行った焼き芋、外食（ファミレスなんてない頃の話）
でした。

(う) 65才、世田谷区

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

（あ）小学校高学年の頃、群馬・高崎市

（い）横浜の親戚を訪問した際、父親に連れられて
山下公園に行った。氷川丸を見学し、弟と二人でマリン
タワーに昇った。海に沿って横に長く延びた公園で、海と反対側の
道路に沿って、公園内にコンクリート製の鉄道高架橋が既に
建設されていて、貨物用と聞いたので子供としての興味が減殺
されたように記憶している。なお、最近のテレビ番組で、高架橋
が撤去されたことを知った。

(う) 68歳、世田谷区

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83